

明石市立大蔵中学校だより「2021年1月15日(第93号)」

書あり 師あり 友ありて

コロナ渦の中でも忘れてはならない記憶！

～ 阪神・淡路大震災から26年になりますが ～

学校長 平田 高之



昨年度も「学校だより第36号」でも取り上げさせて頂きましたが、あの阪神・淡路大震災から26年となります。当時のことは、皆さんの記憶にはどのように残っておられますでしょうか。

このことについては、1月14日に「震災を考える給食」を、本日6校時の総合的な学習の時間に「防災教育」を実施いたします。昨年度実施しましたお「むすび作り」や「防災講演会」は、新型コロナウイルス感染症対応のために実施できませんが、私たち教育に携わる者は、この忘れてはならない記憶については、次代を担う子どもたちに語り継ぐ責務があると考えております。学校現場においても、震災を経験していない教員が増えていき課題となってきますが、本市では、初任者研修において、「人と防災未来センター」での実地研修を実施する等して対応しています。

昨年度、私個人の思いを少し書かせて頂きましたが、本市及び本校区の被害状況について、再度掲載させて頂きますので、ご家庭でお話して頂く参考になればと思っております。

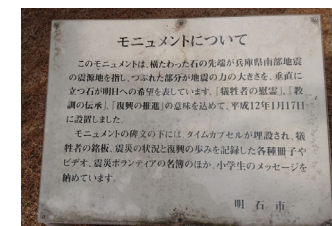
<明石市の状況> (神戸新聞「写真で振り返る25年前」より)

- 地震規模(推計):明石市東部海側は震度7・西部海側は震度6・山側は震度4～5
- 明石市民の犠牲者:26名
- 住宅被害:全壊4,239件・半壊1万957件・一部損壊3万5,618件
- 避難所:学校や公民館23か所
- 仮設住宅:13か所856戸

<本校の状況> (「大蔵中学校 創立50周年記念誌」より)

- 1月17日:緊急避難所開設(武道館・技術室)避難者約400名
- 1月21日まで臨時休校
- 2月1日:学校施設応急危険度調査
- 2月18日:教職員による炊き出し
- 4月16日:避難所閉鎖

実は本校区には阪神・淡路大震災のモニュメントがあります。また、昨年1月15日の神戸新聞には、中崎小卒業生のタイムカプセル開封の記事が紹介されました。



先端の方向の景色

昨年度の「防災講演会」より

昨年度、明石市総務局総合安全対策室から梶本地域防災担当係長に来て頂き、「防災学習 災害に備えて」という内容で兵庫県南部地震やその後の自然災害から学び、どのように備えたらよいのか、ご自身が長野市へ災害派遣をされた時の経験も含め約40分間お話をして頂きました。

南海トラフ地震については、今後30年以内に70～80%の確率で発生するといわれていますので、(私は経験せずに済むかもしれませんが…)今の生徒たちは、必ず経験することになるといいと思います。平成26年2月の兵庫県公表の明石市の被害想定では

・最大震度:6強 ・最高津波水位:2M ・津波到達時間:115分 等 となっています。

では、そのような大規模な災害に備えて何をしなければいけないのか。大人に頼り切るのではなく、中学生も地域の人たちと協力して運営に必要な力にならなくてはならないこと、避難できない取り残されてしまう人たちの助けになるにはどうしたらよいのか等、「物の備え」はもちろん、「心の備え」も大切だというお話をして頂きました。

どうすると身を守るのか ⇒ 避難先はどこか ⇒ どうやって避難先に行くのか
いつ行くのか ⇒ 何を持っていくのか ⇒ どこを通っていくのか

この震災の日を契機に、「避難場所・避難経路」「家族との連絡方法」「地域の危険箇所」等をご家庭でも確認して頂けたらと思います。

なお、市内すべての小中学校が避難所となるため、本校にも非常用として、明石市の備蓄物資が備蓄されていますが、限られた量となっています。

- ・毛布 150 枚
- ・ブルーシート 30 枚
- ・簡易トイレ 10 セット
- ・非常用ご飯 500 食
- ・災害用パン 168 個
- ・マンホール設置型簡易トイレ1基

国・県、他の自治体からの支援が届くまでは3日程度はかかるかとされています。しかも、新型コロナウイルス感染症の中で避難生活は一層困難を生じますので、水、食料等の自宅での非常用の備えがさらに重要となると思います。

